

令和2年度「水防災に関する住民意識アンケート」調査について

■背景

烏川・神流川沿川の2市3町（高崎市、藤岡市、玉村町、神川町、上里町）、群馬県、埼玉県、独立行政法人水資源機構、気象庁、国土交通省関東地方整備局で構成される「烏・神流川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」では、今後起こりうる大規模水害の被害を防ぐため、施設の整備に加え、情報伝達体制の強化や、防災教育の普及啓発などのさまざまな活動に取り組んでいる。

その一環として、平成30年度、洪水浸水想定区域（烏・神流川が氾濫した場合に浸水が予測される地域）内にお住まいの方々を対象に「水防災に関する住民意識アンケート」調査を実施したところ、「防災教育の充実」「自主防災組織等の強化・充実」の2点が重要かつ優先的に取り組むべき課題として挙げられた。

取組の最終年度となる令和2年度にも平成30年度に実施した「水防災に関する住民意識アンケート調査」と同様の内容と令和元年東日本台風（令和元年台風第19号）時の避難行動に係る意識調査を実施しました。

■実施目的

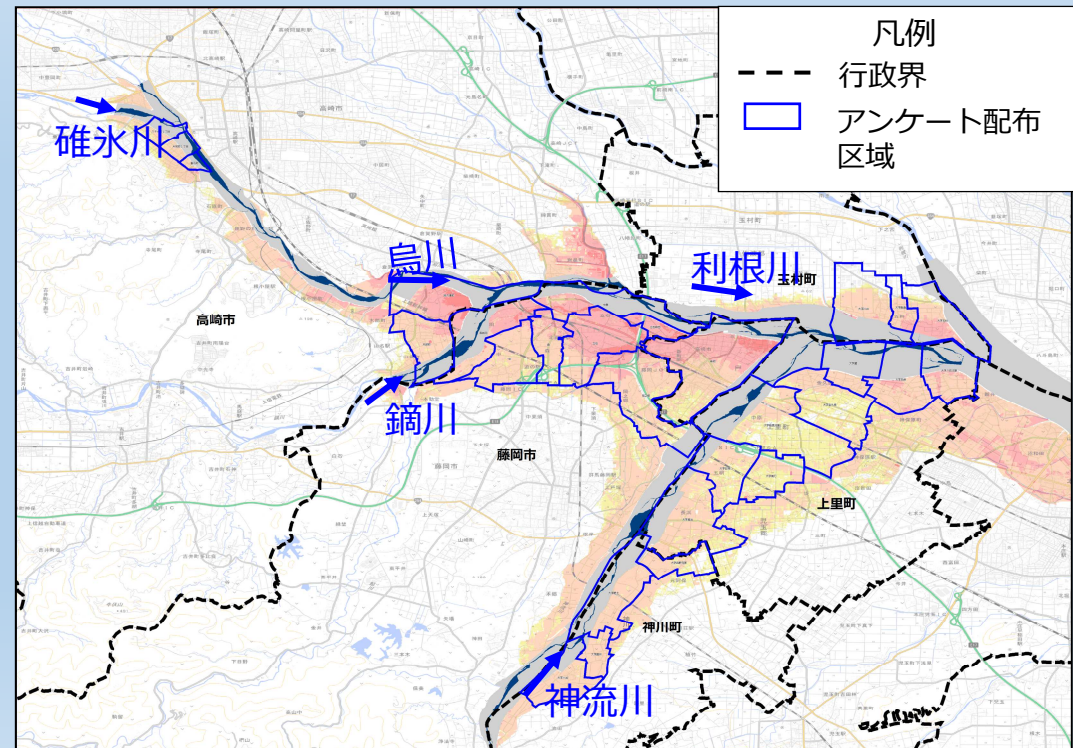
水害への日ごろからの意識を調査し、いざ災害が起きたときの「逃げ遅れゼロ」を実現するために、水害に関する取組をより効果的なものへと見直す基礎資料とするとともに、取組効果を検証することを目的とする。

■アンケート対象者

高崎市、藤岡市、玉村町、上里町、神川町の2市3町のうち、洪水浸水想定区域に該当する町丁目にお住まいの方（右図）

■アンケート実施期間

令和2年7月27日～8月15日
（配布期間7月27日～7月31日）



利根川水系烏川・神流川・碓氷川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）

アンケートの配布数と回収率について

■ アンケート配布数について

アンケート配布数については、統計上必要な回答数と過去の回収実績より、2,100通としました。

- 実施対象 : 烏川・神流川・鐺川・碓氷川の国が管理する区間
- 対象自治体 : 高崎市、藤岡市、玉村町、神川町、上里町
- 対象人口 : 約60,000人

(対象自治体の浸水想定区域(想定最大規模)内人口、
出典: 国勢調査H27(群馬県・埼玉県))

- 必要回収数: 約400人

(統計上、信頼度95%、誤差率5%として、アンケートの回答を得る必要がある人数)

- 回収想定率: 20%(高崎市・藤岡市)
25%(玉村町、神川町、上里町)
(過去の調査実績における回収率を元に設定)

- 配布必要数: 2,100通
(配布数×回収率=必要回収数より設定)

■ アンケート配布数 ・有効回答数



「烏・神流川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」では、今後起こりうる大規模水害の被害を防ぐためさまざまな取組を行っています。
本アンケートではみなさまの水害への日ごろからの意識を調査し、いざ災害が起きたときに「逃げ遅れゼロ」とするための取組の実施に役立てていきたいと考えています。
アンケートへのご協力のほど、よろしくお願ひ致します。

アンケートへのご回答は次ページQRコード(またはURL)よりWebアンケートページにアクセス、または同封の回答用紙に記入し、同封の返信用封筒にて返送ください。
回答締切: 2020年8月15日(土)

(Web回答は当日23:59まで有効、郵送の場合は消印有効)

水防災意識社会の再構築を目指して 烏・神流川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

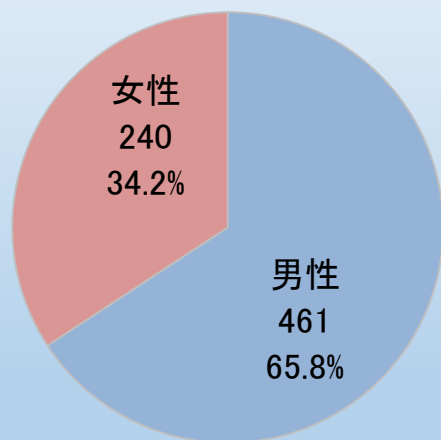


アンケート	高崎市	藤岡市	玉村町	上里町	神川町	無回答、 その他地域	合計
必要数	160	120	30	100	20	-	430
配布数	800	600	200	400	100	-	2100
回収数	276	203	70	127	34	13	723
回収率	34.5%	33.8%	35.0%	31.8%	34.0%	-	34.4%

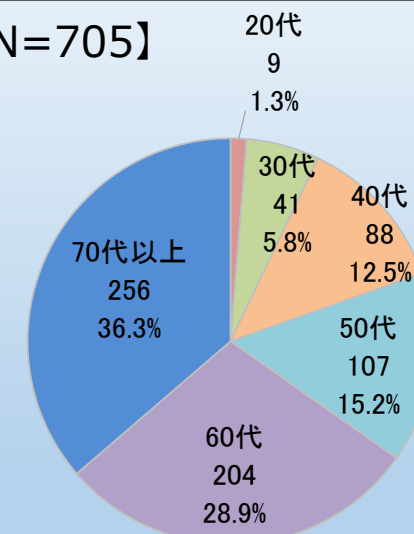
アンケート集計結果

回答者の属性

性別 【有効回答数N=701】



年代 【有効回答数N=705】

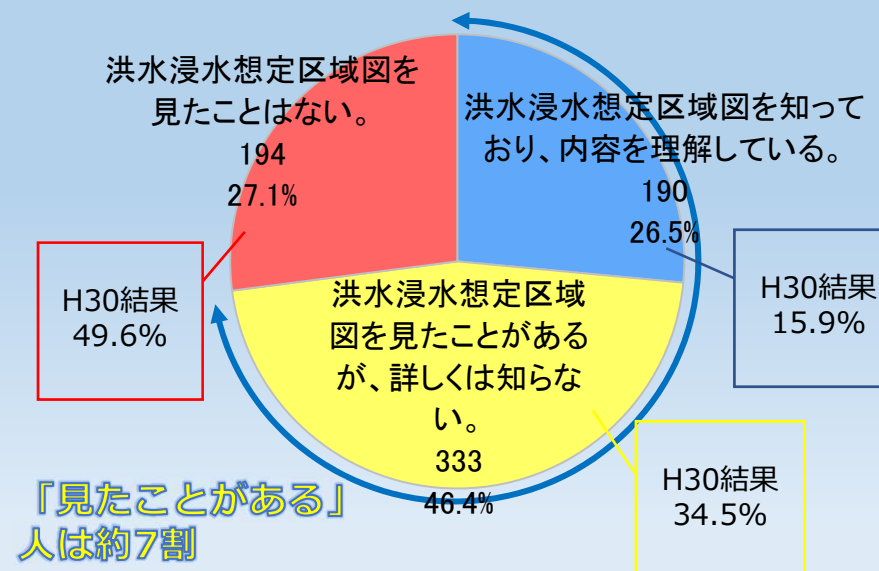


Q1 高崎河川国道事務所では洪水が発生した際を想定し、**洪水浸水想定区域図を公表**しています。洪水浸水想定区域図を**見たことがありますか？**

(単一回答) 【有効回答数N=717】

《POINT》

洪水浸水想定区域図を見たことある方は約7割で、前回（H30）調査時の約5割から大きく増加する結果となりました。
一方で、依然見たことがない方も約3割、見たことはあるが詳しくは知らないという方も全体の約5割いる結果となりました。

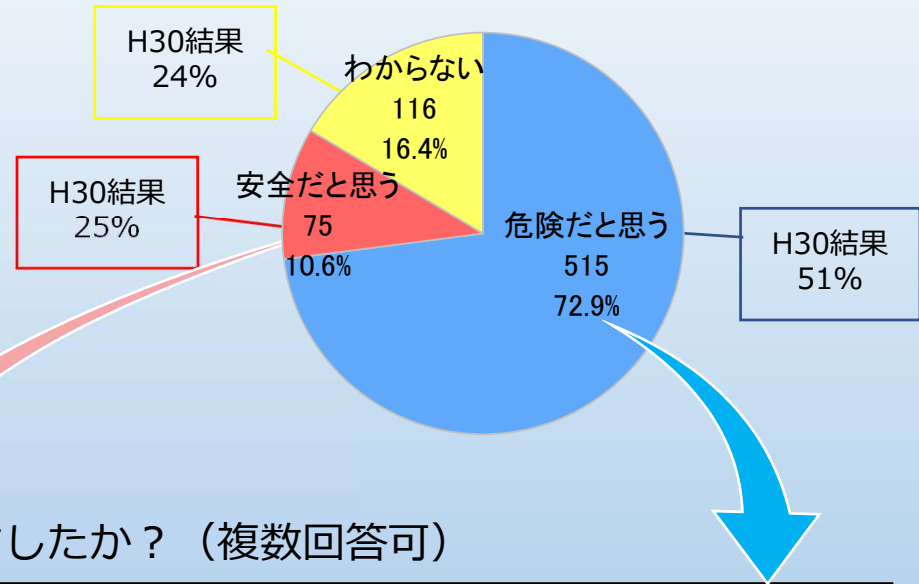


アンケート集計結果

Q2 水害の危険性についてお聞かせください。

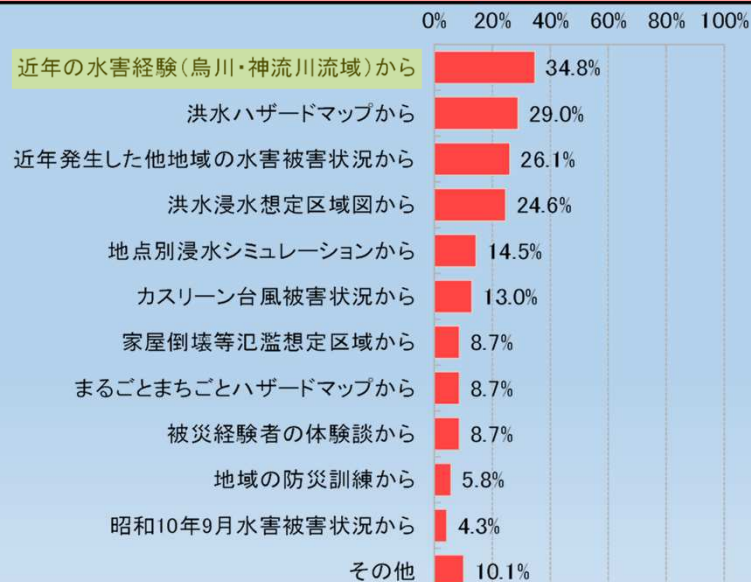
Q2-1 河川の水があふれた場合、**あなたのお住まいの場所に危険が生じると思いますか？**
(単一回答) 【有効回答数N=706】

《POINT》
「危険だと思う」人は約7割（前回約5割）で、危険を認識している人が増えている結果となりました。その理由としては「洪水ハザードマップから」、「洪水浸水想定区域図から」が多くなったことが要因と考えられる。

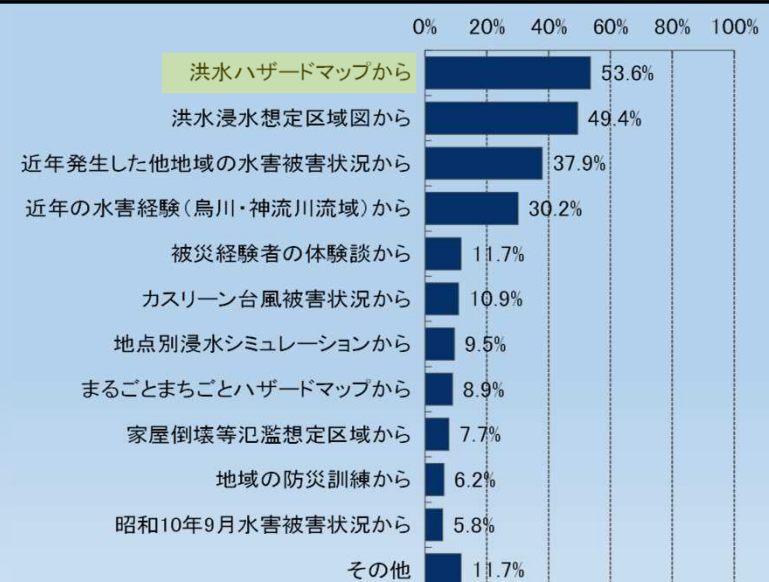


Q2-2 Q2-1について、なぜそのような回答をしましたか？（複数回答可）

●安全だと思っている人の回答



●危険だと思っている人の回答



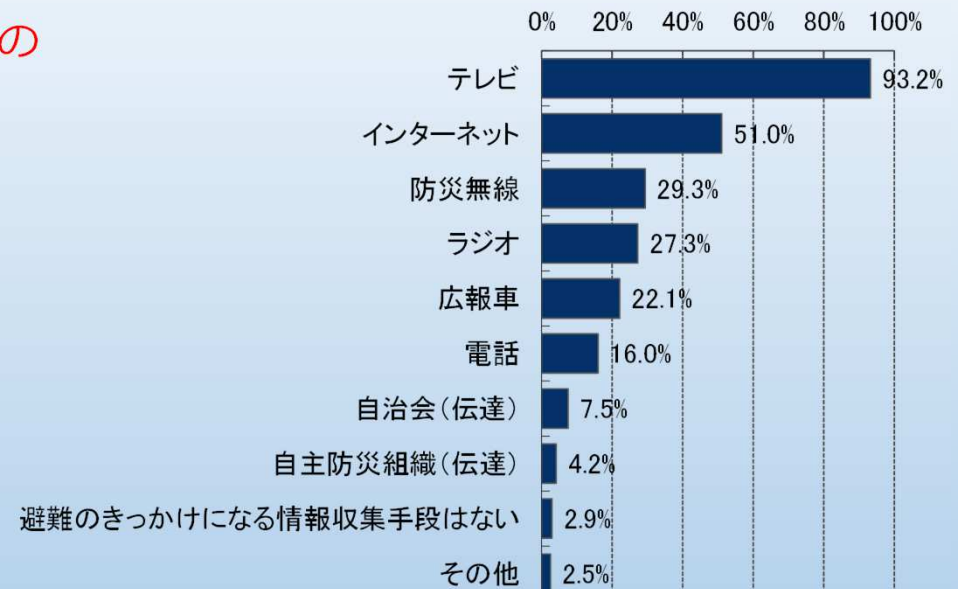
アンケート集計結果

Q3 日常の備えについてお聞かせください。

Q3-1. 普段、水害から身を守るための情報をどのように入手していますか？
(複数回答可) 【回答者数N=719】

《POINT》

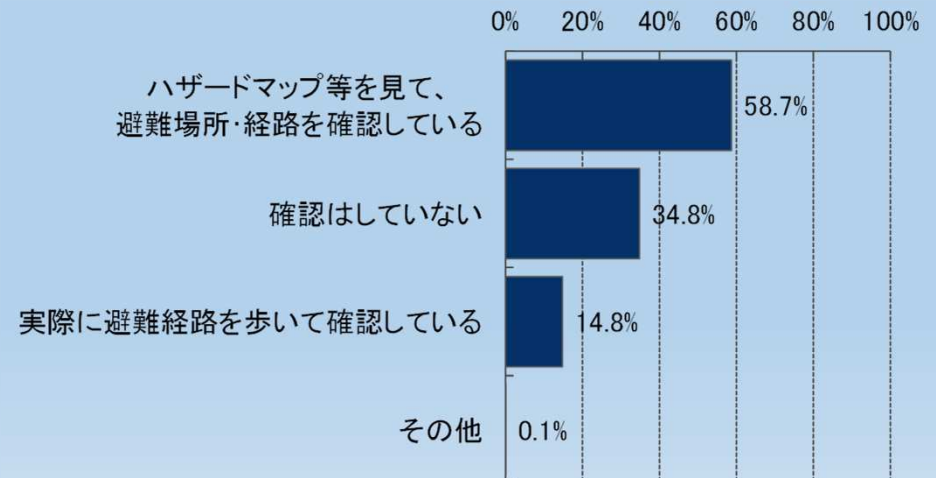
前回の結果と同様、水防災に関する情報は「テレビで入手する」という人が、圧倒的に多い結果となった。次いで、「インターネットで入手する」という人も多い結果となりました。



Q3-2. 避難場所・経路は確認していますか？
(複数回答可) 【回答者数N=715】

《POINT》

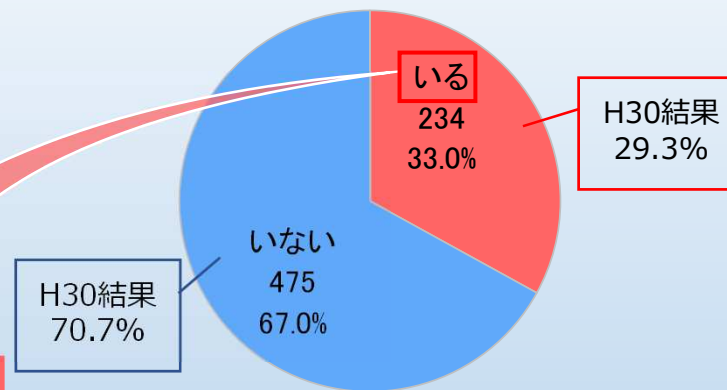
「ハザードマップ等を見て、避難場所・避難経路を確認している」という人は約6割で、前回の約4割から向上しました。一方、「実際に避難経路を歩いて確認している」という人は約1割強で前回から変わりはありません。「避難場所・避難経路の確認はしていない」という人は約4割となり、前回の約6割からは減少しました。



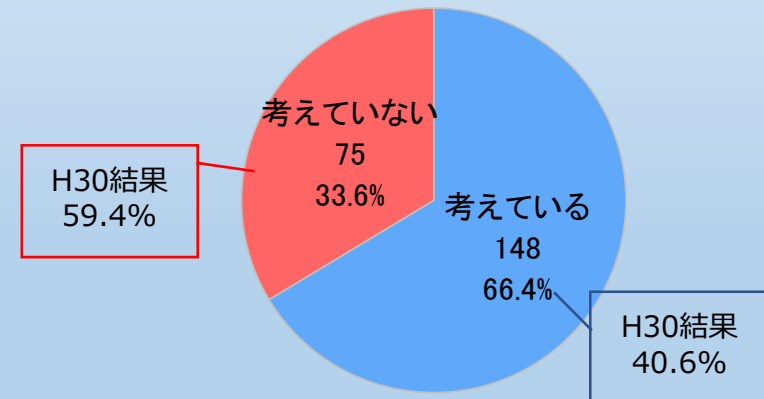
アンケート集計結果

Q3（続き） 日常の備えについてお聞かせください。

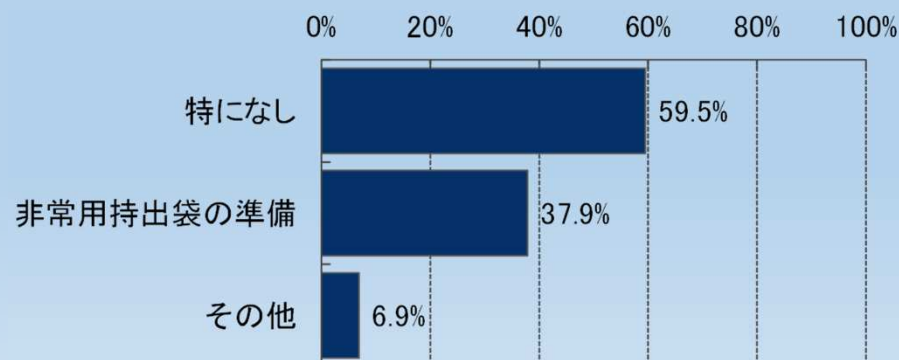
Q3-3. ご家族に赤ちゃん、お年寄、介護を必要とされる方等がいらっしゃいますか？
（単一回答）【回答者数N=709】



Q3-4. 【Q3-3で「いる」を選んだ方のみ】
赤ちゃん、お年寄、介護を必要とされる方等の避難の方法を考えていますか？
（単一回答）【回答者数N=223】



Q3-5. 避難する際の準備として日頃行っている（考えている）ことはありますか？
（複数回答可）【回答者数N=713】



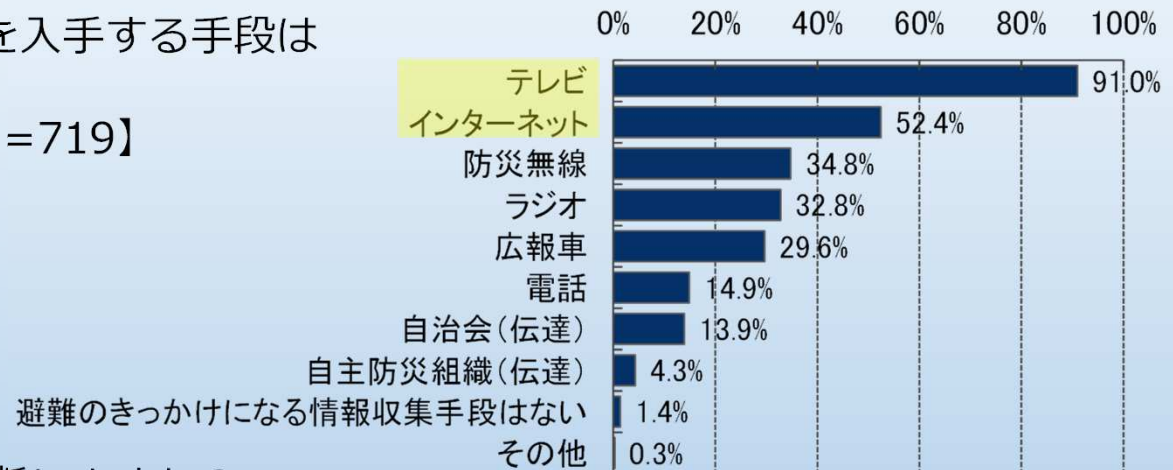
《POINT》

ご家族に要配慮者のいる回答者が全体の約3割。その中で要配慮者の避難方法を考えている人は7割となり、前回の約4割に比べ大きく増加しました。
また、日頃の「避難に備えた準備」については、約6割の人が「特になし」と回答しました。

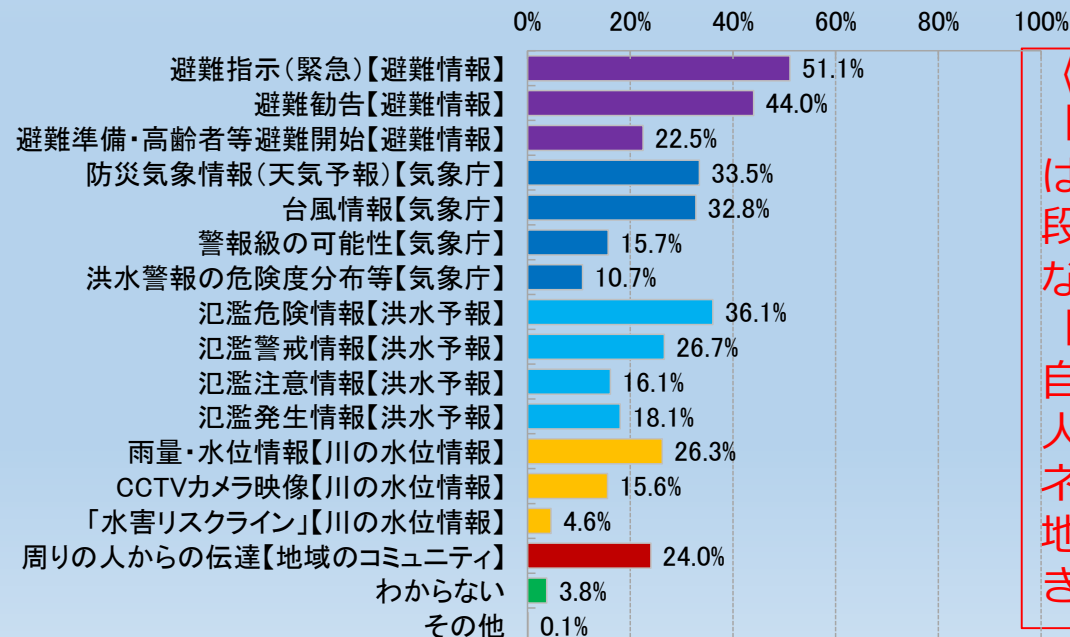
アンケート集計結果

Q4. 台風・大雨が発生した場合の行動についてお聞かせください。

Q4-1. 避難のきっかけとなる情報を入手する手段は
何がありますか？
(複数回答可) 【回答者数N=719】



Q4-2. どのような情報で避難を決断しますか？
(複数回答可) 【回答者数N=720】



《POINT》

「避難のきっかけとなる情報の入手手段」は、前回同様「日常における情報収集手段」でも「テレビ」が圧倒的に多い結果となりました。

「避難を決断する」情報も前回と同様で、自治体から発令される避難情報や「周りの人からの伝達」など、テレビやインターネットを通じて伝わるものだけでなく、地域のコミュニティによる情報が決断のきっかけとなるという結果となりました。

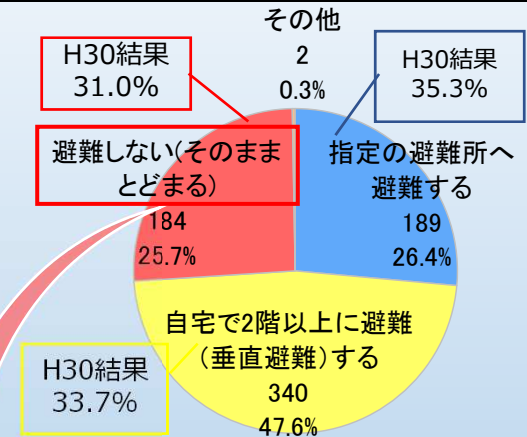
アンケート集計結果

Q5. 仮に、台風が近づいている状況をご想像ください。

Q5-1. 家の近くの河川の水位が高まり、あなたのお住まいの地域に避難準備・高齢者等避難開始が発令されました。まだあなたの家の周囲で浸水は発生していません。



その場合にあなたはどのような行動をとると思いますか？
(単一回答) 【有効回答数N=715】

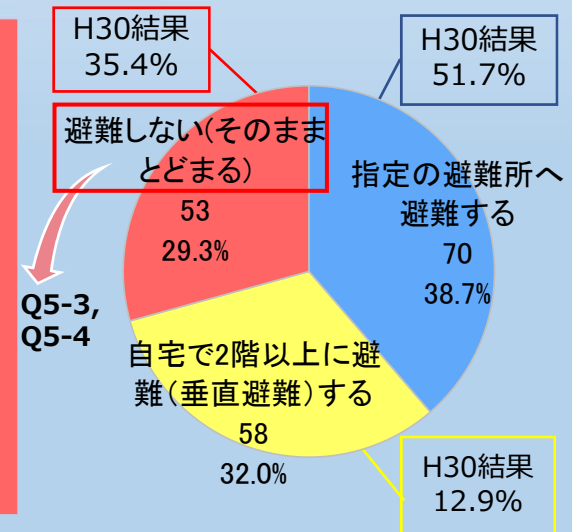


Q5-2. 【Q5-1で「避難しない」を選んだ方のみ】

家の近くの河川の水位がさらに高まり、あなたのお住まいの地域に避難勧告が発令されました。まだあなたの家の周囲で浸水は発生していません。



その場合にあなたはどのような行動をとると思いますか？
(単一回答) 【有効回答数N=181】



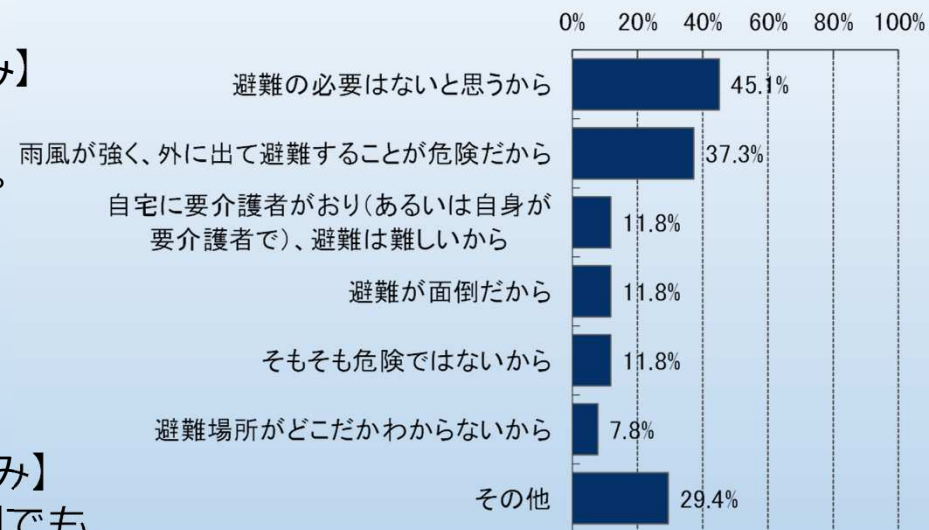
《POINT》

「避難準備・高齢者等避難開始」発令で「避難しない」とした人のうち、約3割が「避難勧告」発令でも避難しないと回答しました。これは全体（Q5-1の有効回答数N=715）の約1割（7%）に相当し、前回の約1割（10%）よりやや減少しました。

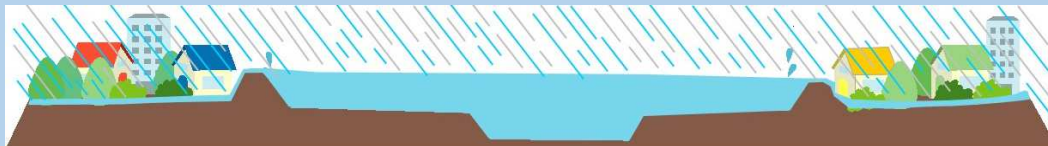
アンケート集計結果

Q5（続き） 仮に、台風が近づいている状況をご想像ください。

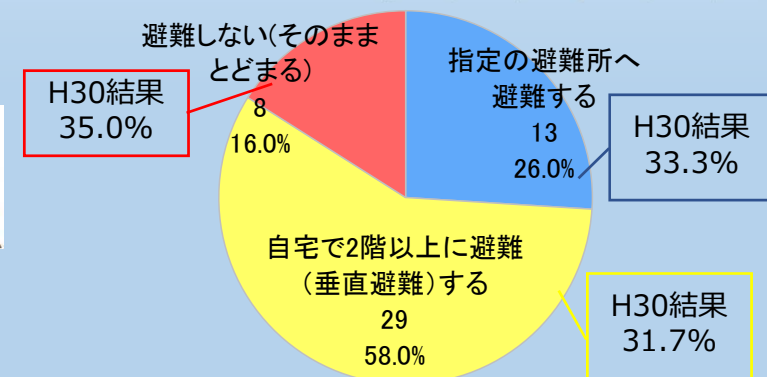
Q5-3. 【Q5-2で「避難しない」を選んだ方のみ】
「避難しない」理由として、
次のうち当てはまるものをお選び下さい。
（複数回答可） 【回答者数N=51】



Q5-4. 【Q5-2で「避難しない」を選んだ方のみ】
その後、さらに雨が強くなり、家の周囲でも
浸水が発生してきました。



その場合にあなたはどのような行動をとると思いますか？（単一回答） 【有効回答数N=50】



《POINT》

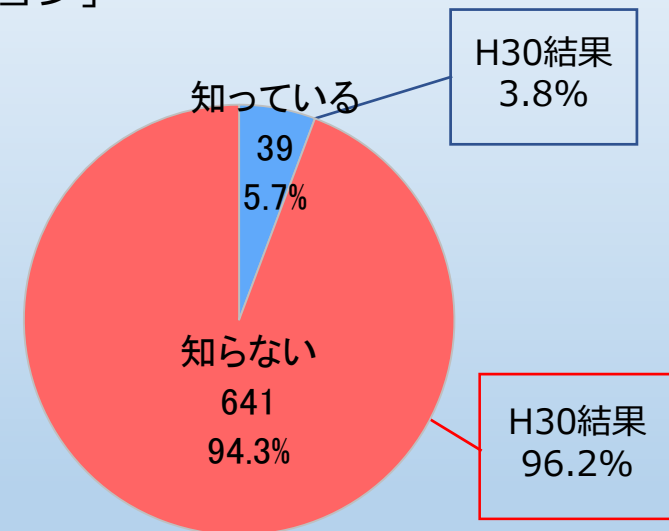
「避難勧告」発令でも避難しないと回答した人に理由を尋ねると「避難の必要がないと思うから」「雨風が強く、外に出て避難することが危険だから」などの回答が多く見られました。また、「家の周囲でも浸水が発生」した状況でも「避難しない」人が全体（Q5-1の有効回答数N=715）の約1%いるという結果でした。この状況は「避難指示（緊急）」が発令され大変危険な状況です。少しでも高いところに避難する等、命を守るための最善の行動をとってください。

アンケート集計結果

Q6. 「水防災意識社会再構築ビジョン」をご存じですか

Q6. 高崎河川国道事務所では「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく取組を行っています。

「水防災意識社会再構築ビジョン」を知っていますか？
(単一回答) 【回答者数N=680】



《POINT》

水防災意識社会再構築ビジョンを「知っている」と答えた人は約6%で前回の約4%よりも微増したものの、依然としてほとんどの人が「知らない」という結果となった。

アンケート集計結果

Q7. 令和元年（2019年）10月に日本列島に上陸し、甚大な被害をもたらした台風第19号についてお聞かせ下さい。

Q7-1. 台風第19号接近時に、水害への備えとして事前に実施していたことは何かありますか？
（自由回答）【有効回答数N=270】（一部を抜粋掲載）

■ 情報収集

- 河川・水位情報をチェックしていた
- TVニュース、インターネットの確認
- 下久保ダムの緊急放水があるか注意していました

■ 避難・避難準備

- 避難所に避難
- 垂直避難
- 避難の準備
- 動物と共に二階に避難準備していた
- 近くの娘夫婦宅が危険区域の為我家に一家を呼んだ
- 他地域に住む子供の家に避難した

■ 防災対策

- 植木の伐採
- 土のうの準備
- 2Fへ大事な物は上げた
- 非常用持出袋の準備
- 水・食料の確保
- 貴重品の持ちだしの準備

■ その他

- 家族と連絡をとる
- 消防団で出動していた

《POINT》

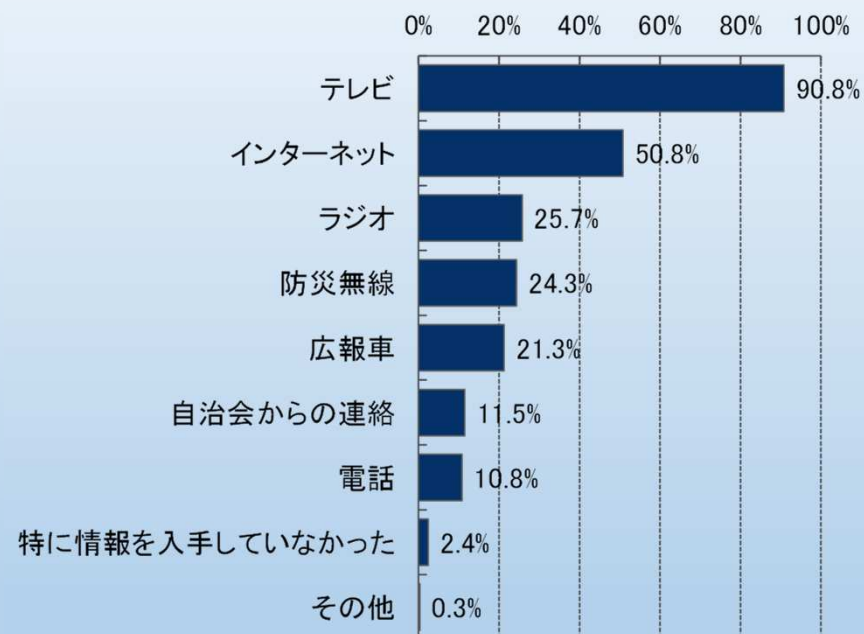
情報収集、避難・避難準備、防災対策（家周辺の整備、持出品の準備）など様々な回答が寄せられました。

アンケート集計結果

Q7（続き） 令和元年（2019年）10月に日本列島に上陸し、甚大な被害をもたらした台風第19号についてお聞かせ下さい。

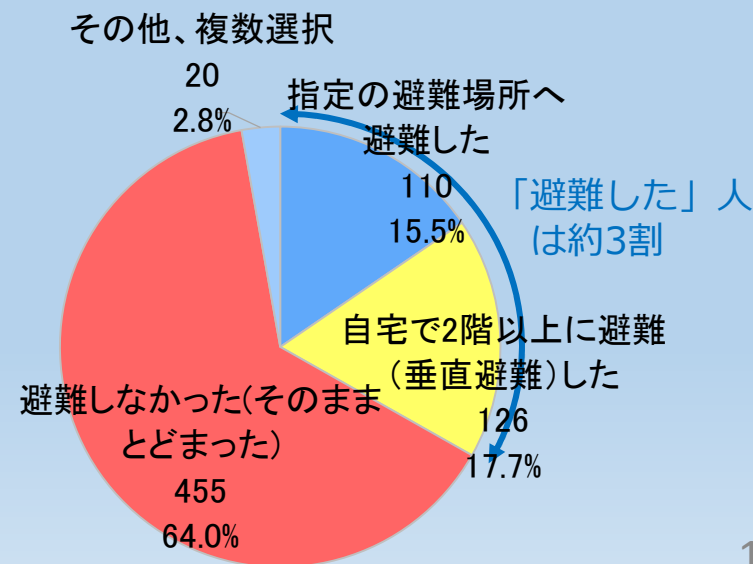
Q7-2. 台風第19号接近時に水害から身を守るための情報をどのように入手していましたか？
（複数回答可）【回答者数N=715】

《POINT》
災害時の情報入手手段についてはQ4とほぼ同様の結果となり、事前の想定通りの手段で情報を入手していました。



Q7-3. 台風第19号接近時にどのような避難行動をとりましたか？
（複数回答可）【回答者数N=711】

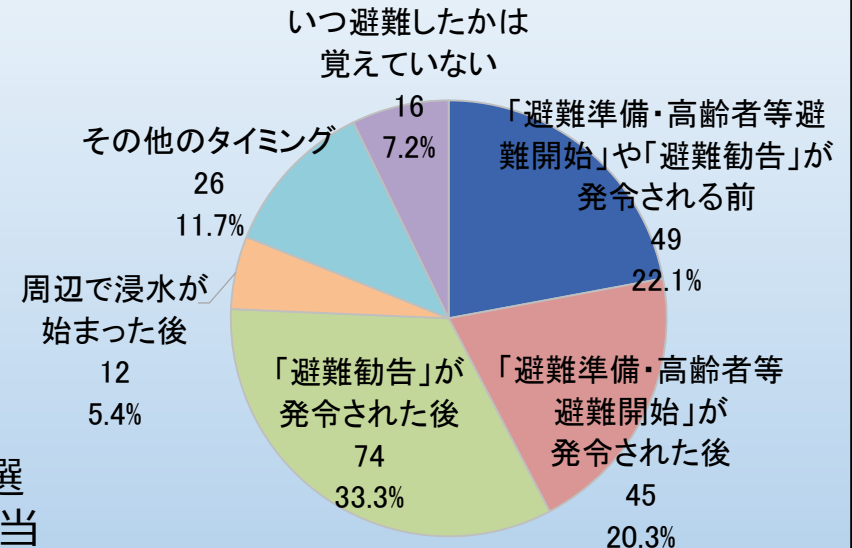
《POINT》
避難行動については、「指定の避難場所へ避難した」「自宅で2階以上に避難（垂直避難）した」を合わせても約3割の方しか避難していない結果となりました。



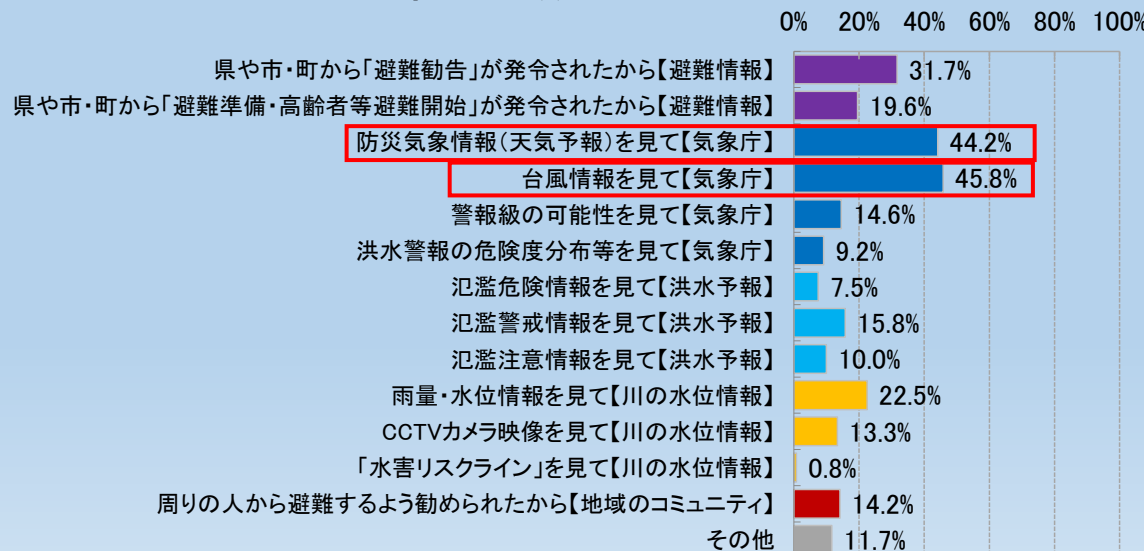
アンケート集計結果

Q7（続き） 令和元年（2019年）10月に日本列島に上陸し、甚大な被害をもたらした台風第19号についてお聞かせ下さい。

Q7-4. 【Q7-3で「指定の避難場所へ避難した」又は「自宅で2階以上に避難（垂直避難）した」を選んだ方のみ】
避難したタイミングについて次のうち当てはまるもの1つをお選びください。
（単一回答）【有効回答数N=222】



Q7-5. 【Q7-3で「指定の避難場所へ避難した」又は「自宅で2階以上に避難（垂直避難）した」を選んだ方のみ】「避難した」理由として次のうち当てはまるものをお選び下さい。
（複数回答可）【有効回答数N=240】



《POINT》
「避難した」という人は、避難のタイミングとして「避難勧告発令後」が最多となりました。避難した理由は、「台風情報」「防災気象情報（天気予報）」の順で多く、避難した人は、自ら今後の気象状況に関する情報を収集し、避難を決断していることが読み取れました。

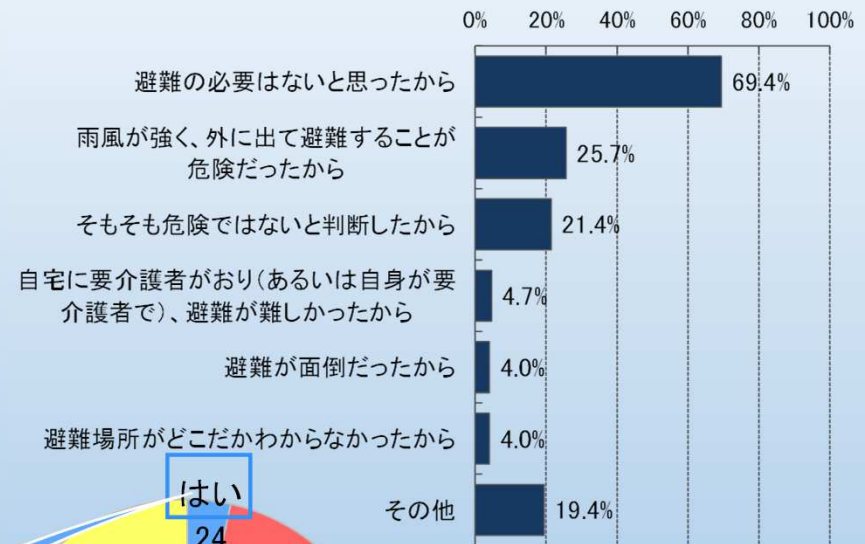
アンケート集計結果

Q7 (続き) 令和元年（2019年）10月に日本列島に上陸し、甚大な被害をもたらした台風第19号についてお聞かせ下さい。

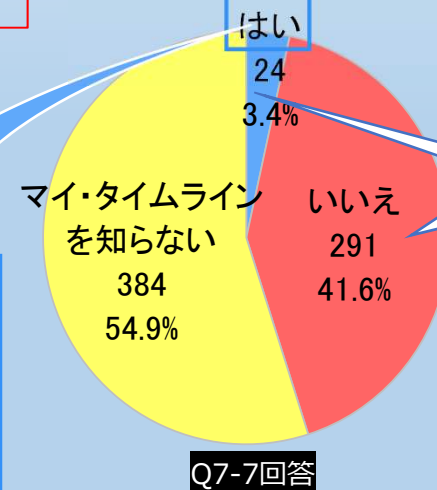
Q7-6. 【Q7-3で「避難しなかった(そのままとどまった)」を選んだ方のみ】
「避難しない」理由として次のうち当てはまるものをお選び下さい。
(複数回答可) 【有効回答数N=448】

《POINT》

避難しなかった理由として「避難の必要はないと思ったから」の回答が最多となりました。

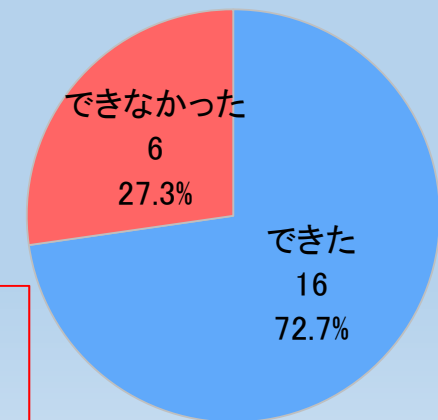


Q7-7. 普段からマイ・タイムラインを作成していますか？
(単一回答) 【有効回答数N=699】



マイ・タイムラインを知っている人は約**45%**

Q7-8. 【Q7-7で「はい」を選んだ方のみ】
台風第19号接近時はマイ・タイムライン通りに行動できましたか？
(単一回答) 【有効回答数N=22】



《POINT》

マイ・タイムラインを作成している人は1割以下（3%）、知っている人は約4割で、半数以上が知らないと回答でした。また、マイ・タイムラインを作成した人は、災害時に約7割が計画通りに避難できたと回答でした。

Q7-8 回答

アンケート集計結果

その他、アンケートの自由回答欄の記入内容（ごく一部を抜粋）

■河川整備について

- 河川に生えている樹木の撤去、川底の整備を要望
- 河川の整備をお願いします。（雑木の清掃など）
- 川の中に立木がいっぱいある。とり除いてほしい。
- 台風19号のときは内水浸水でした。その対策もお願いしたい。

■避難所について

- 水害用の避難場所をお願いします。
- 19号の時避難しても中に入れなかったという声が多かった。
- 令和元年10月の豪雨の経験から避難場所の不足、また避難場所が浸水する可能性大
- 避難場所の安全が疑問だ。場所、広さ、設備、スタッフ等
- 犬などのペットを受け入れてくれる所がありませんでした。ぜひとも作ってほしいです。避難しても入れません。
- ペット（犬・猫だけでなく）同伴で避難できる所を確保して欲しい。

■防災無線について

- 防災無線の音が雨風の音で聞こえない！
- 防災無線について、大型台風の場合、雨戸をしめたり、雨の音が大きくて、聞こえない。また、聞こえた場合でも、音がわれてて、よく、聞きとれない。

■情報提供・入手手段について

- 台風接近の危険情報連絡等が手薄に感じた。台風19号の時同じ地区でも避難者がバラバラであった。
- 昼間と夜との時間でも行動が違う為判断が難しい！
- 参照すべき図（洪水浸水想定区域図、洪水ハザードマップ等）いろいろあって何を最も重視すべきかよくわからない。
- 区、地域単位で情報をもっと詳しく伝えてほしい。
- スマホを持っていない者には、より詳しい避難情報の入手は困難でしょうか？
- 横文字が多く、高齢者が理解するのが大変です。

《POINT》

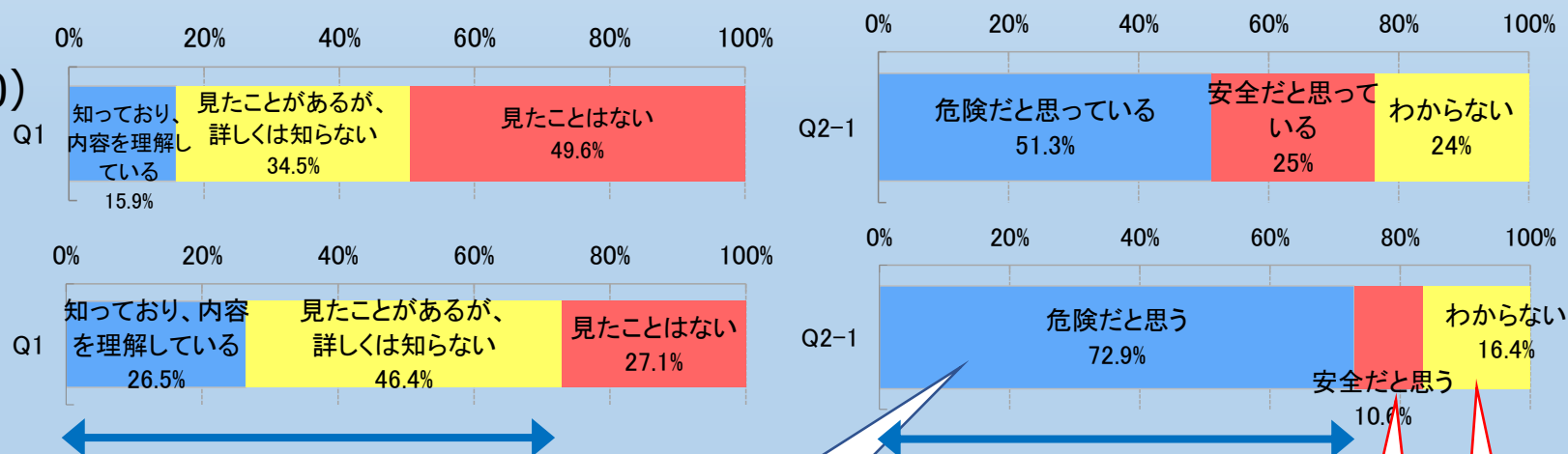
自由回答では、令和元年台風第19号の経験を踏まえ、河川の整備・避難所の環境整備・防災無線の改善・情報の入手方法に関する意見・要望が特に多く集まった。高齢者からは前回同様、情報の提供方法がインターネットに偏っているとのことご意見もありました。一方アンケートを通じて、「防災意識が高まった」「情報の入手方法が分かった」との声も頂きました。

アンケート分析結果① 水害の危険性について正しく認識しているか(Q1,Q2)

水害の危険性について、認知率は高まっているが、継続的な普及啓発が必要

- 洪水浸水想定区域図の認知率は前回（2年前）調査の約5割から約7割へと上昇。洪水浸水想定区域内に居住している方で、**自宅が危険だと考える人は**前回調査の約5割から約7割に増加。
- **取組の一定の効果は見られる。ただ、依然危険性を認知していない3割程度の人への洪水浸水想定区域図等の広報の促進が必要。**また、洪水浸水想定区域図を「見たことがあるが詳しくは知らない」人に対しても、想定される浸水深、リスクについて周知していくことが必要。
- 令和元年台風第19号接近時では「**自宅を危険だと思う**」人の方が「**自宅を安全だと思う／わからない**」人より避難率が高く、自宅のリスクを正しく把握することが「**逃げ遅れゼロ**」につながっていくと考えられる。

前回（H30）
調査結果



今回
調査結果

洪水浸水想定区域図の
認知率は約7割

令和元年台風
第19号接近時での
避難率は約45%

自宅を危険だと思う人
は約7割

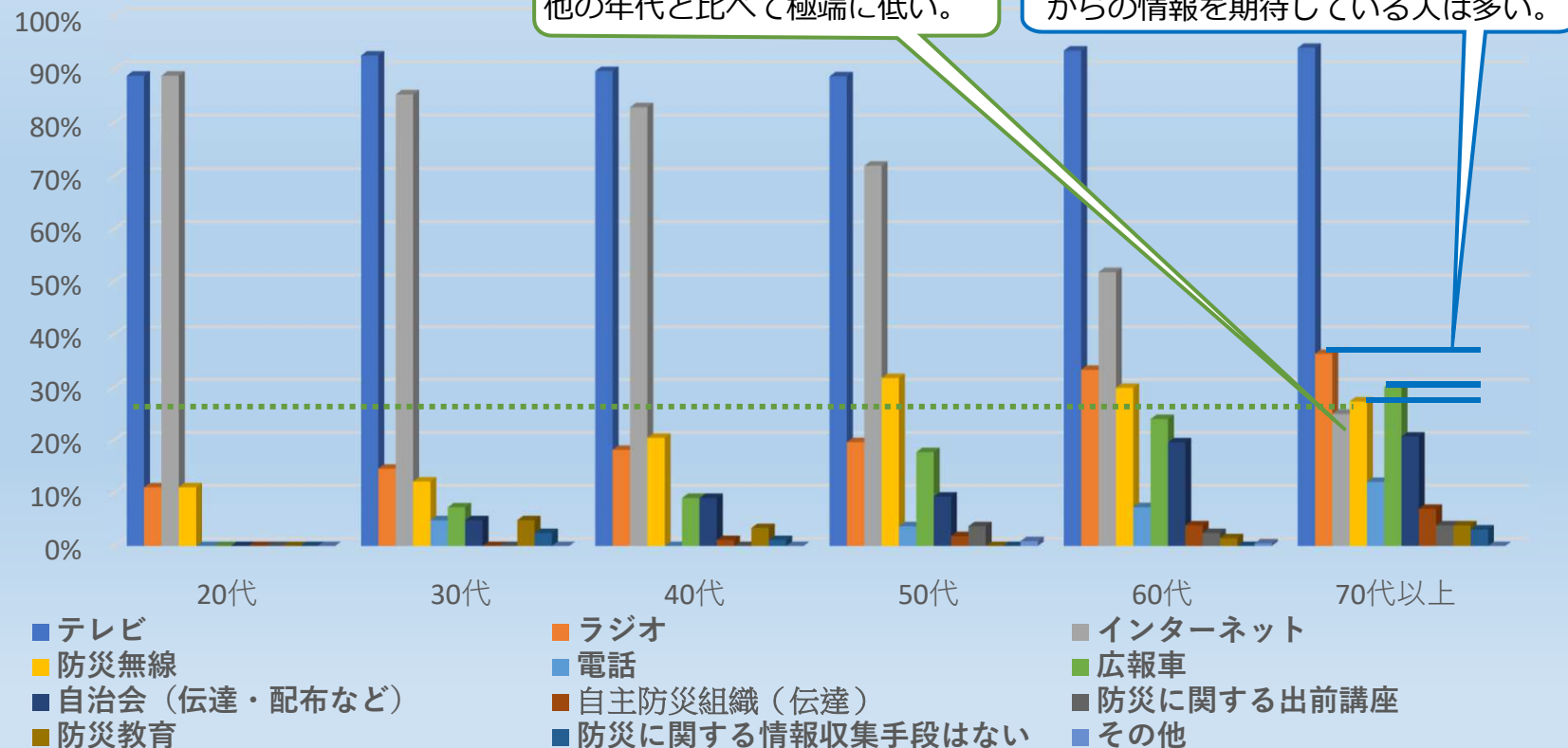
令和元年台風第19号
接近時での避難率は
約14%

アンケート分析結果②-1 日常の備えについて(Q3-1)

インターネットを利用しない年代への避難のきっかけを作る取組が重要

- 日常の防災情報の入手方法については、**特に70代以上の方は他の年代に比べて、インターネットの利用率が低かった**一方、ラジオ、広報車、防災無線からの情報を得ている人は比較的多い(Q3-1)。高齢者は早めの避難が必要となるため、**早い段階から利用率の高いラジオ、広報車、防災無線により避難を促すことも重要**と考えられる。
- 避難情報の入手手段は令和元年台風第19号発生時でも同様の傾向(Q7-2)。

Q3-1 日常生活で水防災に関する情報をどのように入手していますか？次のうち当てはまるものをお選び下さい。(複数回答可)



アンケート分析結果②-2 日常の備えについて(Q3-3,Q3-4)

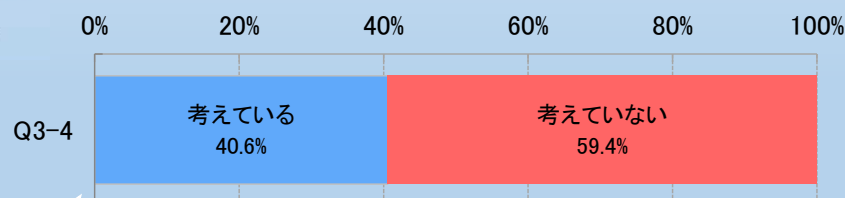
要配慮者の早期避難を促し、支援ができる取組が重要

- 要配慮者が身近にいる方のうち要配慮者の避難方法を考えている人は前回調査の約4割から、今回調査で約7割近くにまで向上した（Q3-3,Q3-4）。
- 引き続き、要配慮者の避難方法を考えていない残りの3割の方に対して、**地域住民が要配慮者の避難方法を考えられるよう、自治体等による支援体制について強化する**必要がある。

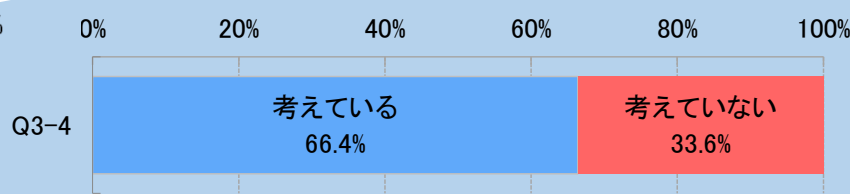
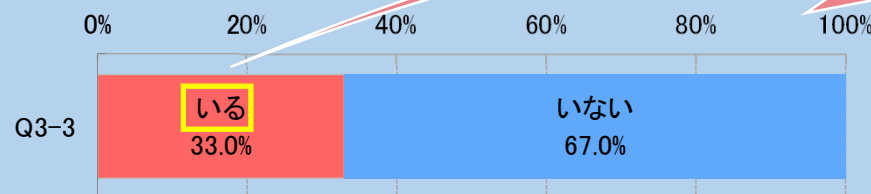
Q3-3. ご家族に赤ちゃん、お年寄、介護を必要とされる方等がいらっしゃいますか？

Q3-4. 【Q3-3で「いる」を選んだ方のみ】赤ちゃん、お年寄、介護を必要とされる方等の避難の方法を考えていますか？

前回 (H30)
調査結果



今回
調査結果

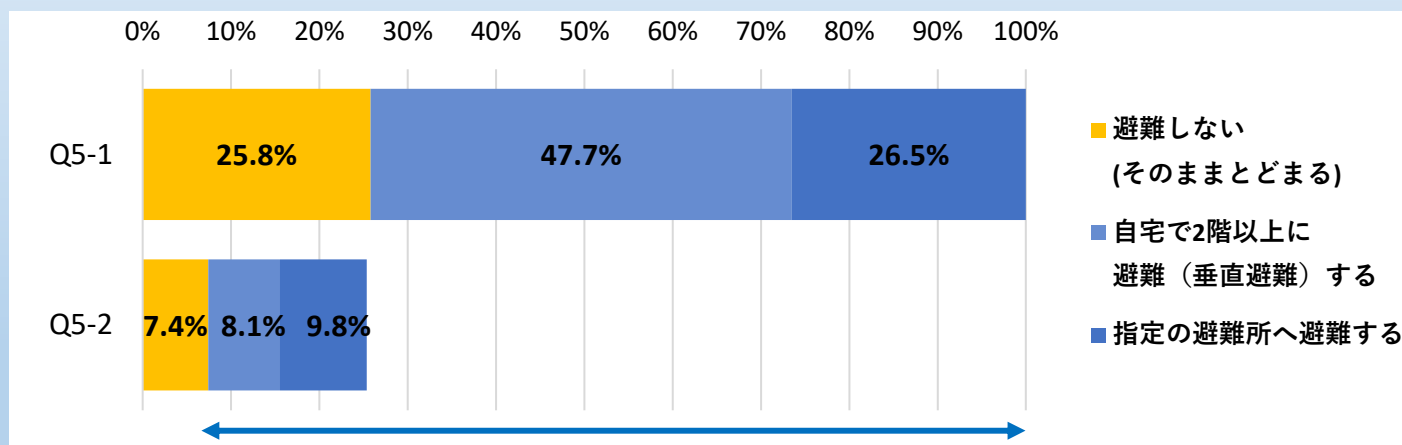


要配慮者の避難方法を
考えているが約7割

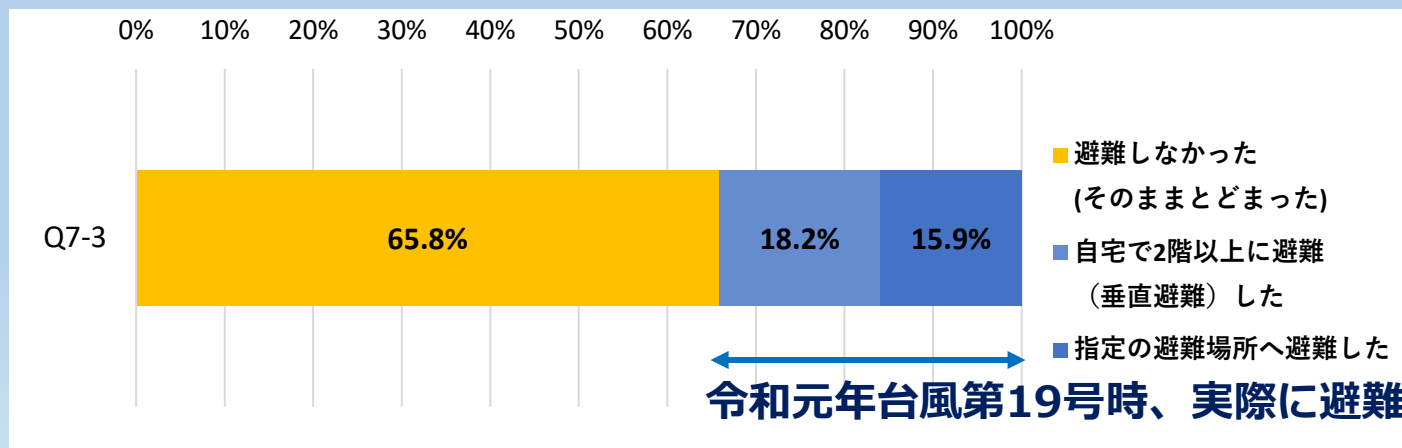
アンケート分析結果③-1 洪水時の避難について(Q5,Q7)

実際の災害時の避難率を上げていくための意識啓発・計画づくりが必要

- 台風接近時を想定した問い(Q5-1、Q5-2)では「避難準備・高齢者等避難開始」または「避難勧告」の発令により**9割の人が避難をする**と回答。
- 一方、令和元年台風第19号では避難勧告が出されていたものの**約3割の人しか避難していない(Q7-3)**。



台風接近時を想定した問いに「避難する」と避難行動を考えた人：約9割



令和元年台風第19号時、実際に避難した人：約3割

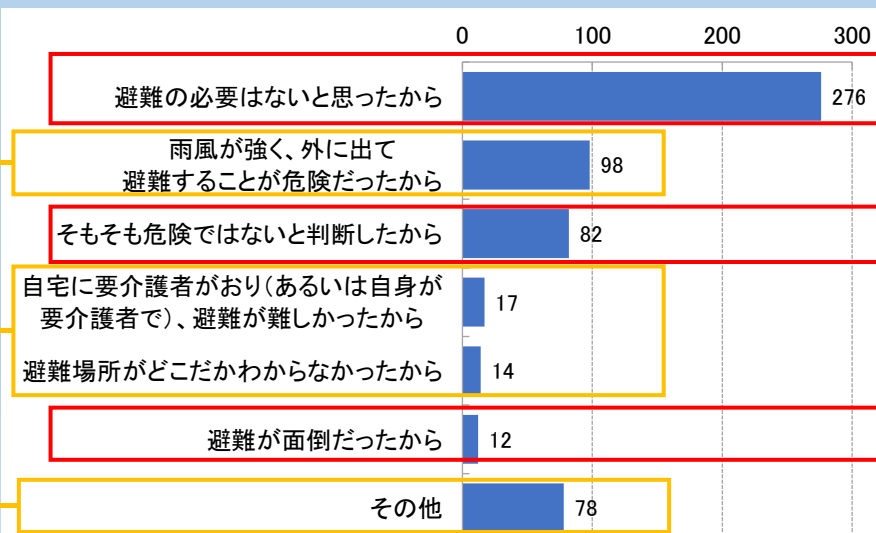
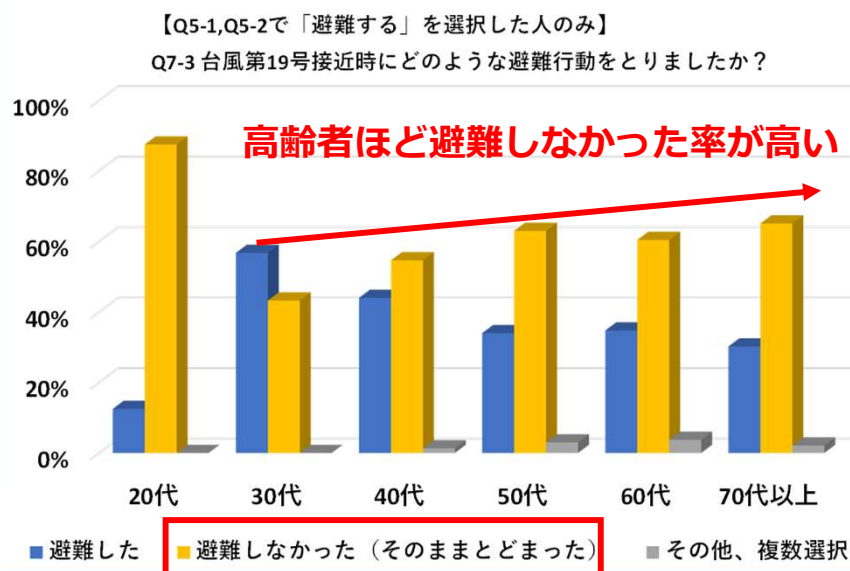
アンケート分析結果③-2 洪水時の避難について(Q5,Q7)

実際の災害時の避難率を上げていくための意識啓発・計画づくりが必要

- 台風接近時を想定した質問で「避難する」と回答したが、実際に令和元年台風第19号で避難しなかった人を年代で見ると**高齢者ほど多くなる傾向であった**。理由を見ると、
 - **理由①：危機意識を持っていないこと、**
 - **理由②：避難したかったが何らかの要因により難しかったから**に大別される。
 - 理由①については**洪水浸水想定区域のリスクのさらなる普及啓発**が必要。
 - 理由②については**早いタイミングでの避難を促す必要性、要配慮者への避難支援、避難場所の周知等の充実も重要**。
- また、その他の回答では、**避難場所（避難所）の安全性・混雑への不安、ペット同伴なので避難できない**などの回答があり避難場所（避難所）の環境改善や工夫が必要。

**理由①
危機意識を
を持っていない**

Q5-1,Q5-2で「避難する」と答えた人の、
台風19号時避難しなかった理由



理由②避難したかったが何らかの要因により難しかった

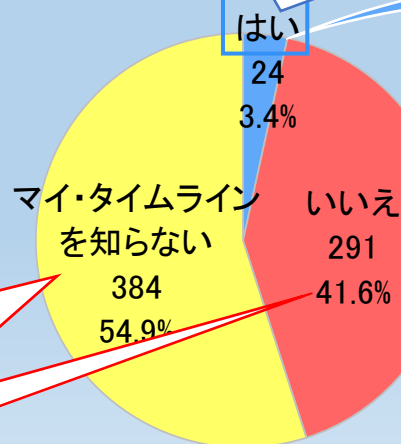
アンケート分析結果④ マイ・タイムラインについて(Q7)

スムーズな避難を実施するために、事前の計画作成が必要

- マイ・タイムラインの**作成率はわずか3%**にとどまり、マイ・タイムラインを**知っている人も約4割**と半数に満たなかった(Q7-7)。
- 令和元年台風第19号の接近の際に、マイ・タイムラインを作っていた人の中で**約7割が計画通りに行動できた**と回答した(Q7-8)。事前に避難しようと思っていても、いざ実際に台風が来た際には避難しない人が多いことから、日頃からマイ・タイムライン等を作成し、いざというときに避難できるような準備をしておくことが必要。
- 令和元年の台風第19号での実際の避難行動(Q7-3)と併せて見ると、**マイ・タイムラインを作成している人の約5割が「避難した」一方、作成していない人で「避難した」人は約3割**にとどまった。マイタイムラインを作成することにより一定程度、避難行動の促進効果が見られると考えられる。

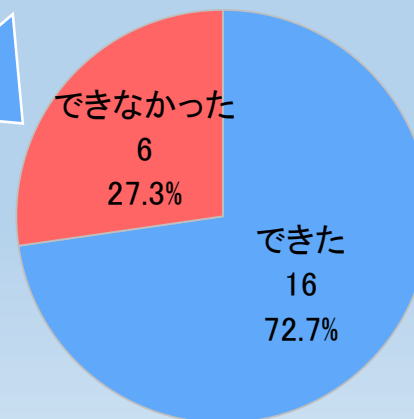
Q7-7. 普段からマイ・タイムラインを作成していますか？

令和元年台風第19号での避難率は**約54%**



令和元年
台風第19号での
避難率は**約32%**

Q7-8. 【Q7-7で「はい」を選んだ方のみ】台風第19号接近時はマイ・タイムライン通りに行動できましたか？



アンケート分析結果（まとめ）

課題	重要とした理由	優先・重要 事項
浸水想定区域図の認知率を向上させ、水害の危険性についての正しい理解を図っていくことが重要である。 「逃げ遅れゼロ」を目指すベースの取組であり、引き続き様々な手段で洪水リスクの普及・啓発を進めることが必要。	洪水浸水想定区域図の認知率は前回調査(H30)の約5割から約7割に、洪水浸水想定区域内に居住し、「自宅が危険だ」と考える人は前回の約5割から約7割にそれぞれ向上した。 前回より危機意識を持つ方は増えているが、一定数安全と過信する方も見られる。	【水防災意識を高める行動】 ・ 住民向けの水防災リスクの普及啓発活動の強化 ・ 学校教育での防災教育の充実、教員向け講習会の実施
要配慮者の避難を地域・自治体で支援する必要がある。	身近にいる要配慮者の避難方法を考えている人は前回の約4割から約7割に増加した。 一方依然3割程度は備えができていない。	【要配慮者の避難の支援】 ・ 自治体等による支援体制についての強化
住民一人一人が適切な避難計画を考える必要性がある。	台風接近時「避難準備・高齢者等避難開始」または「避難勧告」の発令により9割の人が避難をする想定と回答。一方、令和元年台風第19号では約3割の人しか避難しておらず、危機意識の欠如、避難開始の遅さ、要配慮者との避難の難しさなどが見られた。また、避難場所（避難所含む）が分かりにくい、混雑している、ペット同伴避難が難しい等避難場所（避難所）の課題もあった。 マイタイムラインの認知率は約半数にとどまり、作成している人は3%であった。	【スムーズな避難の実施・避難支援】 ・ 自主的な避難につながる避難訓練等の実施 ・ 住民一人一人の避難計画（マイ・タイムライン）の作成・普及啓発
避難場所（避難所）の環境改善により避難の躊躇をなくしていく必要がある。		【避難場所等の環境改善】 ・ 住民のニーズを踏まえ、避難を躊躇することのないような避難場所等の環境改善検討